

書 評

「土壌動物学への招待 採集からデータ解析まで」

Practical guide to soil zoology : From sampling to data analysis

日本土壌動物学会編，東海大学出版会，261pp，定価3,360円（本体3,200円＋税）（2007）

土壌動物学会創設30周年記念として，企画・出版された土壌動物調査・研究のハンドブックである。サブタイトルが「採集からデータ解析まで」とあるように，（１）土壌動物学へようこそ，（２）採集と同定，（３）野外実験と分析，（４）多様性の解析，（５）土壌動物研究の実際，（６）環境と土壌動物，（７）土壌動物学を学ぶ人へ，の7部，31章で構成されている。土壌動物の顔ぶれの紹介，採集法・分類に始まり，野外調査の実際，得られたデータでの各分類群の生活史，個体群動態，群集解析，多様性の解析，さらには地理的変異や環境指標への研究が紹介されている。マイクロゾム，安定同位体，化学生態，毒性学といった土壌

動物学分野ではじめて紹介される興味ある課題もある。内容が多岐にわたるだけに各章はやや短い，巻末にたくさんの参考文献がつけられている。

多くの章を若い研究者が執筆されているだけに，最近の研究の成果・最先端の研究課題が読み取れ，わが国の土壌動物学の活動の全貌がみえてくる。身近なところにありながらも，わかっていないことの多い土の中の動物調査・研究が，本書で大きく進むのではと期待される。中学・高校の自然観察・クラブ活動，地域の動物相調査，環境アセスメントなどにも役立つであろう。

（渡辺弘之・京都大学名誉教授）